

書 写

東 京 書 籍

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

<div style="text-align: right;">発行者名</div> <div style="text-align: left;">採択基準</div>	東京書籍（新しい書写）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を正しく整えて速く書くために必要な知識及び技能が「書写のかぎ」として明確化・焦点化されている。 ・身に付けた知識及び技能を活用する場面が「生かそう」と「生活に広げよう」の2段階で設定され、日常生活につながるよう配慮されている。 ・生活の中に生きる書写を実感し、手で書くことの意義や良さ、価値に気付けるよう構成されている。
2 生徒の学習活動への配慮 <input type="checkbox"/> 内容の程度 <input type="checkbox"/> 学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 楷書や行書、両者の使い分け、場面や目的に応じた書き方などを習得できるように発達段階に応じた教材文字が系統的に配置されている。 (2) 興味・関心を喚起して文字文化の豊かさに触れる「文字のいずみ」、生活に即して知識及び技能を活用する「生活に広げよう」が設けられ、日常生活と関連させ主体的に学ぶことができるよう配慮されている。 (3) 1つの単元が「見つけよう・確かめよう・生かそう」の3段階で構成されていて、生徒の気付きを起点に具体的な知識及び技能について、課題追究的に学習できるよう配慮されている。 (4) 紙面のユニバーサルデザイン化、見やすく書きやすい配置など、全ての生徒が学びやすくなるよう工夫されている。
3 学習指導への配慮 <input type="checkbox"/> 単元・題材の配列 <input type="checkbox"/> 内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「書写のかぎ」で、点画の書き方、省略、行書と仮名の調和などの学習事項を段階的・系統的に指導できるよう単元が配列されている。 (2) 楷書と行書を比較して点画の差を意識しながら、硬筆・毛筆ともに基礎的な技能が段階的・系統的に指導できるよう配慮されている。 (3) 目的に沿って書写の力を生かす「書写活用ブック」に様々な題材が配列され、生活に役立つ知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 (4) 行書の4つの「動き」などを示す朱墨による淡墨図や、動画につながる「Dマークコンテンツ」があり、生徒が視覚的に学習できるよう工夫されている。 (5) 「振り返って話そう」「書写テスト」などのページで、まとめや評価の観点が教師・生徒にとって明確になるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆・毛筆ともに学習事項が「書写のかぎ」として系統的に示されていて、主体的に学習できるよう工夫されている。 ・日常生活での手書き文字が紹介され、文字文化の豊かさに触れながら生活とのつながりを意識できるよう配慮されている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">三省堂（現代の書写）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書写の基礎的な知識や技能を確認すると同時に、文字についての幅広い興味をもてるよう工夫されている。 ・ 日常生活での書く場面を想定した教材が多く、相手や場面に応じて学んだことを効果的に表現できるよう工夫されている。 ・ 学習の流れや学習すべき内容が視覚的に確認できるよう構成されており、学習の見通しをもって、主体的に進められるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 単元は書写の基本から始まり、楷書、仮名、行書、社会生活での文字文化へと学習が進み、発達段階に即して配列されている。 (2) 導入段階で単元の基本構成を簡潔に示したり文字の変遷や身の回りの文字を紹介したりすることで学習過程が意識でき、生徒が興味をもって主体的に学びを進めていけるよう配慮されている。 (3) 各学年末に、書写で学んだことを生かせる活動を取り入れることで、学んだことの有効性に気付き、国語学習や他教科との横断的な学習のつながりが生まれるよう工夫されている。 (4) 図、さし絵、写真等が多く、色覚を考慮した紙面になるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年の発達段階に即した教材が見開きで構成されており、単元で学習する内容が分かりやすいよう工夫されている。 (2) 学習指導要領の書写の指導の配慮事項を踏まえ、毛筆で確かめた内容を硬筆で練習し、技能が定着できるよう配慮されている。 (3) 単元ごとに書き込み欄が多く配置されており、学習した内容の定着と、社会生活への活用を促すよう配慮されている。 (4) 運筆のデジタル資料が用意され、穂先の動きが朱墨で表現される等、視覚的に筆の運び方が指導できるよう工夫されている。 (5) 単元の終末に「振り返ろう」「書いて身につけよう」があることにより、まとめや評価の観点が明確になるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の文字や書き方の課題を自覚し、改善、向上するために、螺旋的に学習を進め、日常に生かせるよう配慮されている。 ・ 国語教科書と関連をもたせた題材を取り上げ、生徒の学習意欲を喚起するよう工夫されている。

発行者名 採択基準	教育出版（中学書写）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「試し書き」「生かそう」「まとめ書きと応用」で、書き込みながら必要な知識及び技能を身に付けられるよう工夫されている。 ・ 「考えよう」で、生徒の興味・関心を促し文字の特徴をつかみ、自分の課題を発見し、課題を解決していく学び方を習得できるよう工夫されている。 ・ ポスターや案内状、手紙といった日常の場面で活用したり、将来に生かしたいという意欲をもったりできるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 硬筆・毛筆教材ともに生徒の発達段階や語彙・言語環境が考慮され、習得しやすい文字や語句が教材化されている。 (2) 毛筆の筆先の動きが朱書きではっきりと書かれている。特に、行書の次の画に向かう筆脈も記されており、生徒が手本をもとに書くことに適した工夫がなされている。 (3) メモや新聞、メッセージカードなどの分かりやすくまとめる力から、便箋や封筒、志願理由書などの実社会で活用できる力まで、生きて働く書写の力を身に付けられるよう工夫されている。 (4) 「考えよう」では、「どの部分か」「どう変化しているか」に着目し、文字の特徴に気付き、必要な技能を身に付けられるよう配慮されている。 (5) 写真、行書の特徴のアイコン表示、学習内容を確認する書き込み欄など、生徒が学びやすいよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 楷書体から行書体、行書と仮名の調和、点画の変化と連続というように、発達段階に応じた単元が配列されている。 (2) 1年、2年、3年と既習の知識及び技能を生かしながら、徐々に高度な書写に挑戦できるよう配慮されている。 (3) 書写での学びが他教科の学習活動や日常に生きて働くような題材配列で、生徒が主体的に取り組めるよう配慮されている。 (4) 「コラム」では、写真や資料を多く掲載することで、日常生活や暮らしと結び付けながら、書写のおもしろさや奥深さを伝えられるよう工夫されている。 (5) 「まとめ書きと応用」「振り返ろう」で、自己の学びを実感できるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語の教科書との関連が図られているので、書写の学習を取り入れた国語の授業づくりができるよう工夫されている。 ・ さまざまな筆記用具の字体を紹介し、筆記用具を選択する大切さを実感できるよう配慮されている。

<div style="text-align: center;">発行者名</div> 採択基準	光村図書（中学書写）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のポイントがわかる「学習の窓」を設けるなど、基礎・基本、原則・原理を明確に示すことで、文字の書き方だけでなく知識及び技能を確実に習得できるよう工夫されている。 ・ 全教材で「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という学習展開が示され、生徒自らが見通しをもって主体的に学習できるよう工夫されている。 ・ 身の回りの文字文化に触れられる資料が取り上げられていて、書写学習で身に付けた力を生活で活用できるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の発達段階に即した書体が題材として示されており、自然の美しさや希望、優れた言葉・文章が選定されている。 (2) 手紙やはがき、原稿用紙等の書式や、学校生活や日常生活に役立つ活用例が豊富に掲載され、生徒が興味・関心をもちながら身につけた書写の技能を生かせるよう配慮されている。 (3) 「考えよう」をきっかけとする教材が多く設定され、それを基に「確かめよう」で技術を習得し、「生かそう」では硬筆等実生活に生かすことができるよう工夫されている。 (4) Web コンテンツから繰り返し視聴できる動画教材によって、視覚的に理解が深まるよう工夫されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3年間で学習したことが日常化されるよう、発達段階に合わせて段階的かつ系統的に単元が配列されている。 (2) 硬筆練習帳「書写ブック」を新設し、毛筆での学習を硬筆へとスムーズに生かせるよう工夫されている。 (3) 硬筆・毛筆の筆遣いを順に学べて、かつ手本の書体や形体を統一することで生徒が円滑に練習し、書写の技能を身につけられるよう工夫されている。 (4) 文字の歴史や成り立ちの資料や、身近な文字文化の紹介の資料が多く掲載され、生徒が興味をもって学習できるよう配慮されている。 (5) 筆の動きを写真で示すだけでなく、Web コンテンツで動画を見て運筆などの動作を確認できるよう工夫されている。 (6) 各学習事項のはじめに目標が明示され、終末には「振り返り」の自己評価項目が具体的に提示されるなど、生徒が学習の流れを理解し、見通しをもって学習できるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真やWeb コンテンツが配置されており、学習内容や既習事項が視覚資料で確認できるよう工夫されている。 ・ 楷書と行書で示された常用漢字表、人名用漢字表があり、実生活で活用できるよう工夫されている。 ・ 主たる学習要素は大きく丁寧に、その他は小さく簡潔に示すメリハリのある紙面構成により、学習のねらいや流れが明確でつかみやすいよう配慮されている。

